

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	190100131		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり中央 樹の館		
所在地	札幌市中央区南9条西7丁目1番28号		
自己評価作成日	平成26年6月22日	評価結果市町村受理日	平成26年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・おもてなしの四つの心を大切にしています。入居者様と職員が共に笑い合い、助け合う場面が多く見られます。人生の大先輩として尊敬と感謝の気持ちを忘れずいつも笑顔で心のこもった支援をしています。

・一日を生き活きと過ごせるよう、レクリエーションや外気浴、買い物、白ゆり農園での畑作業など、メリハリのある生活をしています。

・食事を美味しく安全に食べられるよう、各々の嚥下状態に合わせた食事形態や調理方法の工夫などを提供しています。

・いつまでも社会参加出来るよう地域や町内会主催の行事に参加して交流を通じて繋がりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100131-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年8月6日(水)		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念の中に『地域の核となり和をもって輪を広げよう』と掲げ、朝礼でも復唱している。各フロア勤務者で「今日の理念」を一つ選択し、その理念に基づいた一日を過ごせるよう具体的目標に向かってケアにあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	西創成第4町内会に属しており、回覧板や定期総会への出席、ホームを地域行事の会場として開放する等、町内会と情報を共有し活動に参加している。また地域住民ボランティア員が継続的にホームへも関わり交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や介護予防『ふまねっと』講習会をホームを会場とし提供する等で、交流機会を設けて理解に生かしている。運営推進会議で介護サービスの説明や認知症に関する質疑応答の場がある。近隣住人から認知症介護の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施。定期報告の他、避難訓練の見学総評意見交換、お食事について、家族アンケート調査結果と改善報告・地域・家族交流行事の反省会等状況に即した議題を準備しご意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へ申請や提出書類、制度について不明点は都度確認し、ご指導を頂きながら運営に努めている。又、地域包括支援センター職員に運営推進会議参加頂きアドバイスを受け協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を中心とし、指定基準に基づいて身体拘束がもたらす弊害や禁止行為11項目について等、スタッフ研修を行って勉強会を行っている。ホームフロア毎のエレベーターは常に開錠され使用可能な環境にあり、希望時は職員が同行して外出や散歩を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員会を中心とし、法令の他、特に不適切なケアについては具体的な事例を用いてグループワークし個々がケアを考える時間を大事にスタッフ研修会を行っている。面談でストレスマネジメントやフロア業務改善にも取り組み防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事故対策委員会を中心に地域権利擁護事業や制度についてスタッフ研修会を行い学んでいる。実際に成年後見人制度を活用しており、管理者、職員は日頃から日常的に関係者と話し合いや関わりの機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約は、契約書類の読み合わせ補足説明を行ない質問・確認を取りながら実施。改定は必ず事前に文章説明を実施、必要時面会や電話連絡で直接補足説明や報告同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族アンケートを実施しご意見を頂く機会がある。又入居者個々にご家族要望シートを作成し面会・電話・fax等細かな情報共有からご要望までを記録し職員で共有、運営へ反映している。玄関に意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へ想い・意見・要望など伝える機会がある。月に一度の全体会議に役員が参加しており、意見を聞く機会がある。又、定期的に管理者面談があるが、日頃から相談しやすい環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に会社の役員が出席している。管理者・主任面談で個々に目標設定の話し合いや成果の確認を行っている。資格取得支援のための環境が整っており、向上心を持ち働けている。安定した雇用状態であり有給休暇も希望通り取れる環境で安心して働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回代表者から『理念』について講話の機会がある。毎月ホーム内でスタッフ研修が実施、外部研修にも全員が年に1回参加が確保され内外の研修を通じて各々がスキルアップ出来る学びの機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム管理者連絡会やスタッフ研修会が当ビル会議室を使用して定期的開催され他ホーム職員との意見交換や学びを通じて質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当で事前訪問し、情報を収集している。入居するにあたり、直接本人と話し、不安軽減に取り組んでいる。家族、本人から趣味や生活歴などを聞きケアに取り入れ良好な関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者や、ケア担当者を中心に面会に来られた際、ホームでの暮らしの近況報告を行っている。又、家族の想いや要望を伺いケアに反映し信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には他サービスの情報も含め、ご家族と職員とで共にセンター方式に情報を収集記録し、入居前の本人の様子を見極め必要なケアを話し合いからその人らしく暮らせるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、生き生きと生活してもらえよう、食事の盛り付け、食器拭き、配膳、オシボリたたみ、洗濯物たたみなど様々な家事活動を一緒にを行い利用者、職員が共に支え合い暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月予定表や行事案内、生活の様子を電話やお手紙で報告している。予定表に合わせて面会されたり、行事にも一緒に参加される方もあり、家族の想いやケアの要望を直接伺ったり、ケア後の反応を報告し共に本人を支えていると感じて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会が日常的にある。家族、知人宛の封書をポストに投函したり、家族の協力を得ながら、自宅外泊、コンサート、旅行、中島公園へ散歩に出掛けるなど馴染みの場所や人の関係性が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席以外にも、ソファやイスを設置しゆったりと過ごせるスペースがあり利用者同士コミュニケーションを取れる工夫をしている。困難な方には皆の輪に入り、職員が掛け橋になり、孤立せず利用者同士が関わり合いをもてるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も了解を得て入院先への面会を継続している方もいる。又ご家族から電話やお便りを頂くこともあり関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に担当職員を決め、より細やかに関わり本人と話し合い、言葉、表情、行動などから想いをくみ取る等しフロア会議等で話し合い意向を反映したケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他サービスから情報を収集、センター方式を共同で記入作成し情報を集約、生活歴把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別にケアプランに沿った介護記録用紙、温度板を作成し活用している。その他ボディチェック表も活用し入浴時等定期的に全身確認、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやサービス担当者会議を担当者中心に話し合いを行っている。必要時にはセンター方式の必要なシートを活用し計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活やケアプランに即した介護記録の書式を定期的に見直ししながら活用している。情報を共有しやすいよう、ケアシートに記入し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴・音楽・ピアノ・園芸等様々なが外部ボランティアが入っており生活の中で柔軟なサービスを提供。又、併設DSと共同で行事を行うこともあり楽しみにされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生の歌唱コンクールに招待を受け鑑賞したり、町内会主催のふまネット、もちつき大会へ参加、初詣参拝等、近隣環境へ外出する機会があり安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を行い希望に合った医療の継続を支援。受診時は連絡調整や情報提供の対応をしている。専門医受診も同様に支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師がフロア巡回し体調管理や健康相談、必要な指示を受けている。併設ティサービス兼務し巡回以外にも細かな連携が出来る。24時間オンコール体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会へ行き、馴染みの職員が面会に行く事で、精神的にサポートしている。又、病院関係者と情報を交換、共有し早期退院に向けサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームに重度化の指針があり入居時に説明している。管理者、主任、看護師、ご家族を交え、生活支援の話し合いを行う機会があり、その内容を病院関係者とも共有しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応もマニュアル化しており、いつでも閲覧できるよう設置している。内部外部研修を定期的に受講し、外部研修後には伝達講習を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回防災訓練を実施、家族の参加もある。119番直通電話は3階に設置。緊急時連絡網に地域住民の番号を登録、駆けつけ応援体制がある。災害時を想定し部分訓練の実施や実際の震災事例を用いて勉強会を実施した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等は、イニシャルを用いて場所や状況に応じた配慮をしている。スタッフ研修会でプライバシー保護について研修を開き実践に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉かけを行うことで、日常的に入浴や食事内容、日課等ご本人へ確認し希望を表出できるようにして自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日予定を本人と職員で確認してから、当日の流れを決めケアを組み立てている。外出予定の方には入浴や食事時間を変更する等、希望に添って柔軟にその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧を欠かさない方や天気やイベントに合わせて服装を変えたりと各々にお洒落を楽しんでいる。困難な方には、一緒に選んだり、メイク整容等介助支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を見やすい位置に設置、嗜好を把握し献立に反映、必要に応じ代替品提供や形態別の調理を実施。調理に関しても、盛り付けや食器拭き等共に行い毎日の食事が楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、必要な方には栄養補助飲料や補食等提供している。又、食事時間をずらしたり検食簿や介護記録に食事の様子を記載し、各々にあった食事量、食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守り。困難な方には口腔内の状態に応じて、舌ブラシや口腔スポンジなどその人にあった道具を使用し清潔を保てるよう支援している。歯科往診も受けアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じチェック表を活用しパターンを把握している。個々の排泄間隔に合せた誘導、オムツ・パット・下着の種類も個別にアセスメントや検討、適した物を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた献立提供や水分の提供。午前、午後に運動を実施する時間を作り、便秘予防に努めている。便秘がちな方には腹部にホットパックを用いて、自然排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望を伺い、時間や日にちを決めている。又、午前中に入浴を好まれる方もおり、時間帯に関係なく、入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣を大切に自然に眠れるよう室温や照明などに配慮している。日中の活動量を増やすなどして夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用がないか、日頃から様子観察を行っている。変化時は、主治医、薬剤師、看護師へ報告し指示を受けている。二週間に一度、薬剤師による居宅療養管理指導を受けている方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鉢植え管理、ぬり絵、工作、数学ドリル、カラオケ、クラシック鑑賞等、各々に趣味が豊富で楽しんでいる。役割活動で洗濯物たたみやカーテン開閉等、役割を持ち過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と定期的にコンサートや外食に出かけられる方もいる。日常的に散歩や買い物へ出掛けたり、白ゆり農園で作業をする等四季を感じられるよう支援している。外出行事にご家族も同行されたり誕生日には、担当職員と相談し希望一日とし映画鑑賞やホテルランチ等へ出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお財布を持っている方もいる。希望に応じ職員と一緒に近隣のドラックストアやスーパーへ出掛け日用品やおやつを購入などの買い物支援を行いお金を使用する機会を提供を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置したり携帯電話を持っている方もおり、自由に家族や知人と連絡、ホーム電話でも取次いでいる。又、文通を趣味としている方もおり楽しみとされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾品を一緒に作成したり畑から花を摘んでリビングに飾り季節を感じられるよう支援している。又、各居室入口に個人の作品や写真を飾って分かり易くしている。居間に室温、湿度計を設置、必要に応じて加湿器を使用し居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファを置き、気分に合わせて好きな場所を選んで休むことが出来る。入居者同士談笑したり珈琲を飲んだり思い思い過ごしている。展望も良く景色を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた馴染みの私物や趣味の物、調度品など思い出の品を使用している。行事やご家族と一緒に撮った写真など貼り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわかるよう、矢印を示し場所がわかるよう工夫している。整理整頓に心がけて歩行の妨げにならないように安全な環境に配慮している。		